

極早生で良食味のニホンナシ新品種「蒼月」

ニホンナシは盆前に大きな需要があり高単価で取引されますが、関東地方において主要品種「幸水」を盆前出荷するには施設栽培やジベレリン処理などのコストや労力が必要となるため、より早期に収穫可能な極早生品種の育成が求められてきました。そこで、農研機構果樹茶業研究部門では7月下旬から収穫できる良食味の青ナシ新品種「蒼月」を育成したので、その特性の概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 樹勢は「幸水」よりやや強く、短果枝、えき花芽の着生は共に少ないです。収穫盛期は7月下旬から8月上旬で「幸水」より20日程度早い極早生です（表1）。果実の形は円形で、果皮は黄緑色を呈し、さびの発生程度は中程度です（写真）。
2. 果実重は370g程度と「幸水」とほぼ同じ大きさであり、極早生品種としては大果です。果汁糖度は12.4%（Brix）と甘味はやや高く、pHは5.2程度で酸味は少なく渋みは認められません（表2）。
3. ニホンナシは、一般的にさわやかでグリーンな香りが特徴ですが、「蒼月」では、加糖れん乳やそれを加工したキャンディーを連想させるミルキー感のある甘い風味が認められます。この香りはγ-デカラクトンに由来することが分かっています。
4. 有袋栽培を行うことで、より外観をきれいに仕上げることはできますが、無袋栽培果実に比べ糖度が低下する点に注意が必要です。



写真 「蒼月」の果実

表1 「蒼月」の樹体特性 （農研機構果樹茶業研究部門 2018-2021）

品種	樹勢	枝の発生密度	短果枝の着生	えき花芽の着生	開花中央日	収穫中央日
蒼月	やや強	やや少	少	やや少～中	4月11日	7月29日
幸水	中	中	少	やや多	4月11日	8月17日

表2 「蒼月」の果実特性（無袋栽培） （農研機構果樹茶業研究部門 2018-2021）

品種	果実重(g)	果肉硬度(lbs)	糖度(%)	pH	みつ症の発生	心腐れの発生
蒼月	367	4.8	12.4	5.2	無	無
幸水	366	5.6	12.4	5.2	無	無

☆ 活用面での留意点

1. 西南暖地を中心に花芽の枯死や発芽不良が発生することがあるため、注意が必要です。
2. えき花芽、短果枝ともに着生が少ないため、剪定時の待ち枝の確保や夏季に枝の誘引を行うなどにより花芽の確保に努める必要があります。
3. 本品種の苗木は、今後許諾契約を締結した果樹苗木業者から販売される予定であり、令和8年秋以降の販売開始を目指しています。

（農研機構・果樹茶業研究部門 宮田翔）